

熱中症 日射病・熱射病

◆長時間戸外で直射日光にさらされると起こるのが日射病

◆長時間蒸し暑い場所に居たために起こるのが熱射病

☀日射病と熱射病の総称が熱中症☀

症状:立ちくらみ・頭痛・めまい・吐き気(嘔吐)・高熱

体内の塩分や水分が不足して、発熱や脱水症状がおこる

もし、熱中症が疑われたら 体温を下げること!

・冷たいタオルや保冷剤など全身を冷やす(冷水を噴霧)

局所ポイントは、首すじ・脇の下・太ももの付け根など

・日陰・涼所に移動して風を送る ・水分・塩分の補給

水か麦茶でこまめに水分補給をしましょう。過剰なスポーツ飲料の摂取は腎機能が未熟な児には負担になり、虫歯の原因にもなります。麦茶は利尿作用が少なく胃粘膜を保護します。麦茶は、日本風土に根付いた欠かせない夏季の生活飲料です。

痙攣・水分補給困難・意識障害がある場合は、救急搬送・病院へ救急車を呼んだほうがいい?近くの病院は?応急手当はどうしたら?こんなときは・・・以下の電話相談窓口へ

救急安心センターおおさか(365日24時間対応) #7119

つながらない場合は ☎06-6582-7119

お知らせ

7月の感染症り患もありませんでした。手洗いなどのコロナ対策が徹底されていることなどが、影響しているようです。

耳鼻科検診は7月8日に行われ、耳垢塞栓が多く認められました。例年、軽微な耳垢は検診時に除去されていたのですが、コロナ禍の折、処置できませんでした。

おうちでも、週に一度爪切りの際に耳垢のようすもみて、除去してくださいね。

歯科検診は7月16日に行われ、虫歯での受診勧告はひまわり組の5名でした。

5歳児でも、まだまだ就寝前の仕上げ磨きが必要だと思われます。

夏に気をつけたい 虫(蚊や蜂)刺され

処置

- ・刺された部分をすぐに水道水で洗いながし、冷やす
- ・蜂に刺されたら、針があれば取り除く。毒を吸い出すのは適切であるが、口での吸引は避ける
- ・症状に応じてかゆみ止め(抗ヒスタミン剤)を塗る

園では、ムヒSを使用しています。体質が合わないなど

不都合がある場合はお知らせください。

蜂の毒でアレルギー反応があると、蕁麻疹・発汗・吐き気・頭痛・腹痛などの症状がでます。血圧低下や意識消失などの症状は、命にかかわるので医療機関での応急手当が必要です。

虫刺されやあせもからの とびひ に注意

虫刺された箇所や、汗疹(あせも)、傷痕、水いぼなどを引っ掻くと、とびひになることがあります。

とびひは、その引っ掻き痕が膿を持ち水疱ができてジュクジュクした組織液が出てきます。その部分を触った手で引っ掻くとまたそこにとびひ傷ができます。接触することで他児にもうつる感染症です。とびひ様の傷がある場合には、ガーゼなどで覆い速やかに皮膚科の受診をお願いします。

尚、とびひと診断されたら感染症届の提出が必要です。

自然環境に恵まれた場所や緑の多い公園などへ行く場合は、虫よけ対策をしてでかけましょう。

蜂は黒いものや香りに向かっていく習性があるので、頭髮(黒い)を覆う帽子をかぶり、薄手の長袖長ズボンの着用がのぞまれます。

衣服は、黒色や強い香りの柔軟剤を使用したものは避けた方がよいでしょう。

